

発達障害の知識とその対応が教育効果を高める

中学生を指導していると、授業の構想と子どもの動きや考えにずれがあり、指導が難しく思うことがよくある。

指導案が間違っている

もっと深く構想しなければいけない

子どもの思考を考えないといけない

などなど先輩や指導者から助言を受ける。

なかなかうまくいかない……。 むずかしい……。

私は、小学校の児童理解や指導法、**特別支援学校の児童生徒理解や指導法が参考になる**のではないかと考えている。確かに、ふつうの学校にも支援を要する子どもは存在する。従って、我々教員は、発達障害の知識とその指導法を知る必要がある。

福井大学 中井昭夫先生が、「発達障害の新しい捉え方と合理的な配慮の必要性」に関して話していたことを整理する。

(以下内容)

1 「生きる力」「社会参加」のための今を大切に

○発達障害の今

4割就労、低賃金

診断の遅れ (いつ診断を受けたのか?)

高学歴者が多い

アスペルガー (AS) を含むと在宅生活者が多い

○ひきこもり (不登校を含む)

0.5%の家庭

社会参加を回避

1 / 4 が発達障害



法改正や戦略で社会へ就労へ (さまざまなトラブル (障害) が起こる)

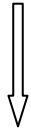
・企業側は「就労支援チェックリスト」※学校的に勉強ができて役にも立たない

・保護者の不安

この現実でどうするか…**視点を変えないと同じことが起こる**

○診断

- ・チェックリスト形式…グレーゾーン（チェックが多くなるとも1つある）



診断結果が異なる（どれが正しいの？）

小さい頃からサインを出しているがスルーしている

丸ごととらえる

- ・診断の意味…特性を把握



対応支援の仕方がわかる

「気づき」「理解」「受容」が大切

そんな感じ？、と思ったらすぐする（対応する）

支援者の資質、スキルが大切

○発達障害は

ある時点、ある断面だけでは決して理解できない

平均をとると見逃すことがある

発達障害…時間軸で考えないといけない

もはや 先天的でない

関連遺伝子のみで理解できない

脳領域で理解できない

つまり 相互作用

相乗的相互作用

偶有性

が関わる

治るの？ 治すもののなの？

犯人（原因）捜しをしてもどうしようもない

今を見て対応することが大切

「あれ！？ この子 → 理解 → 支援」が大切

2 バリア（障害）

無知、無理解

こちらの方にバリア（障害）がある

障害の正常化をはかると二次障害がおこる

発達障害の二次的障害（無理強い）があってはならない（怖い）



脳科学的な教育…与えられた脳にどのように効果的な入力を行い、脳を変えていくか
（まさに教育！）

○わかりやすく伝える

- ・ 短く具体的に…あいまいなことや比喩は言わない

「あなたに言ってますよ ～さん」

見通しや期限を与える

- ・ **Social Skill Training** を教えないといけませんが、

その場からは分からない

応用や一般化はできない

＋と－に分けて、－を聞いて＋は分からない



最低限、

あいさつ、人の話を聞く、話を遮らない

謝ることができる

距離感を持てる

声の大きさを調節できる

- ・ 部活動やアルバイトのすすめが有効

INCLUSIVE（多様性の受容）

TRANSITION（転換）

LIAISON（連携）

3 発想の転換

- ・二次障害を避け、必要な発達課題をクリアして、生きる力を身につけていく

そのために、こんな発想の転換を

落ち着きがない ↔ 行動力あり

注意散漫 ↔ 興味関心あり

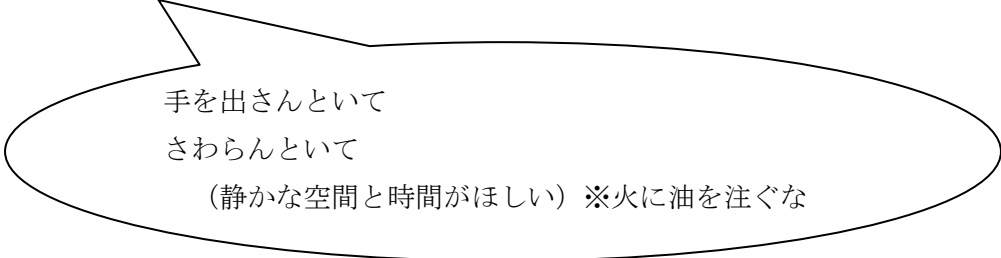
すべて一人でできなくてよい

自尊心を育てる

- ・子どもの行動の意味を理解した対応を

「突然こんなことをする」には必ず理由がある（行動の理由を推測する）

不安、見通しの持てなさ…自己調整(self regulation)、相互調整(meltdown)



手を出さんといて

さわらんといて

（静かな空間と時間がほしい）※火に油を注ぐな

理解してあげて下さい…彼らの「感覚」「世界」「行動」「不安」を

（嶋記）

2年間、特別支援学校の授業を見せていただいた。

率直な感想は、「生徒に理解させるために先生がさまざまな工夫を行っていること」です。特別支援教育は特別な支援が必要な子どものためだけではなく、ふつうの子どもたちへの指導にも十分に参考になることです。

ぜひ、特別支援に関する子どもの理解、そしてその指導法を学び、理科の授業や学校運営に生かしたいと強く考えている。